ドイツと日本の類似点と相違点

髙野 莉沙

1. はじめに

私のホストマザーはドイツと日本のハーフで、家庭全体でも日常の中に日本文化が息づいているようでした。そこで、本レポートでは日本に縁のある家族と過ごしたからこそ見えてきたドイツと日本の似ているところ、違うところについて紹介していきます。

2. ホストファミリーについて

始めに、ホストファミリーの家庭にあった日本らしいものについて紹介します。まず、庭が日本庭園となっていました。ホストファザーはドイツの方なのですが、盆栽を育てることが趣味で、いつも朝に庭にあるものの手入れをしていらっしゃいました。また、ホストシスターたちはサンリオやジブリが好きで、グッズを持っていたり、ジブリソングを口ずさんでいたりしていました。さらに日本語の絵本などもあって、滞在中に一緒に読んだこともありました。最も驚いたのは、炊飯器があったことです。米も近くのアジアンショップで購入しているそうで、おにぎりを作ることもできるとおっしゃっていました。麦茶も常備されており、日本で飲むものと変わりなかったです。私としてはとても安心感がありました。





3. 類似点

まず、ホストファミリーの家に入ったとき、靴を脱いで上がることが驚きでした。海外はどこも靴で上がることが多いのかと思っていたので、日本と同じなのだと知りました。

また、ある日の夜ご飯がケバブだ

ったのですが、ドイツにはケバブのお店が多くあり、よく食べるとおっしゃっていました。日本人はケバブこそ食べませんが、マクドナルドやケンタッキーなど、ファストフード店のハンバーガーをよく食べます。ホストシスターたちもご飯がケバブだと聞くととても嬉しそうにしていたので、日本と同じだと感じました。

さらに、アウクスブルクの街を歩いているときに、日本でよく見掛けるものを見つけました。それは「飛び出し坊や」です。日本でも、特に関西発祥で、関西人の私たちには馴染みのあるものだったので、ドイツにも飛び出し坊やのような標識があることが嬉しかったです。またその近くでガチャガチャのようなものも見つけました。日本の文化が取り入れられていることは日本人として誇れることだと感じました。





4. 相違点

ドイツでは、日曜日はどこのお店も閉店しており、家で休暇を取ることが勧められています。一方日本は、基本的に毎日お店が開いており、むしろ日曜日の方がお客さんがよく来るという店が多く、日曜日に閉める店はあまりないと考えます。

また、ドイツでは商業施設などにあるお手洗いを使うためにお金がかかることに大いに驚きました。日本では当然のように無料で使用していた綺麗なお手洗いですが、あれは当たり前ではなかったのだと知ることができました。

さらに、少し困ったのは、水が基本的に全て炭酸水であったことです。苦手ではないですが、炭酸が入っていると一度に多くの量が飲めないため、何度も炭酸が入っていない水を欲してしまいました。

最も驚いたのは、移動遊園地の安全性についてです。1日目に移動遊園地を訪問し、私は空中ブランコと急流すべりに乗りました。まず空中ブランコについて、てっきり荷物を下に置いていくのだと思っていたら、持参したままでした。さらに、私がスカートを履いていたせいで、下のベルトを止められることなく始まってしまいました。思った以上に高く上がり、スピードも速く、長い間乗っていました。続いて、急流すべりについてです。そこまで高いところから落ちるわけではなさそうだったので、あまり怖くないのかと思っていたのですが、いざ乗ってみると安全バー等が何も無く、横に鉄の棒がある程度でした。高くないとはいえ落下角度は大きかったので、固定されていないととても怖かったです。日本ではジェットコースターなどをよく乗る方だったのですが、日本とはまた違ったスリルがあって、想像以上に怖いと感じました。日本の遊園地がどれほど安全に配慮されているかがよく分かりました。





5. おわりに

今回、ドイツと日本の類似点と相違点について考えてみて、もちろん違うところはたくさんありましたが、似ているところもあると知ることができました。ドイツと日本は歴史的にもどこか似たような経験をしてきていると思っていたので、現代でも似た部分を感じることができて嬉しく思います。本レポートを書くことが、異文化間の相互理解をより深める良い機会となりました。この経験をこれからに活かしていきたいです。